

もっと世界とつながる グッとくる マガジン

GM

GLOBAL MIND

GLOBAL MIND IS THE SPIRIT OF OSAKA INTERNATIONAL EDUCATIONAL INSTITUTION

[グローバルマインド]

71

Aug. 2026

学校法人 大阪国際学園
広報誌

就任MESSAGE

大阪国際大学 大阪国際大学短期大学部

久保田 豊司 学長

大阪国際中学校高等学校

高江洲 良昌 校長

学生VOICE

大阪国際大学短期大学部 幼児保育学科 2年次生

野口 綾奈さん

馬場 優花さん

活躍する、卒業生たち

ヴィアティン三重・四日市バレーボール

バレーボール事業部 バイスディレクター

宮下 遥さん

大阪国際大和田中学校・大阪国際滝井高等学校 出身

学園HEAD LINE／素顔の先生たち

特集

「トドラールーム おひさま」始動！

大阪国際学園は、建学の精神である「全人教育」を基礎として、礼節を重んじ、世界に通じる心豊かな人間を育成します。



GLØBAL MIND

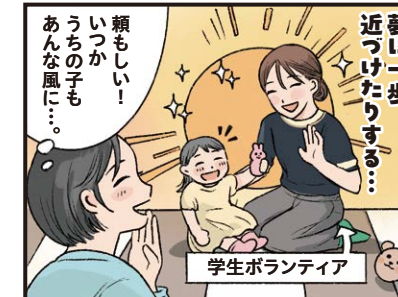
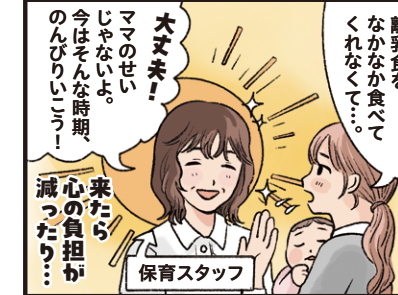
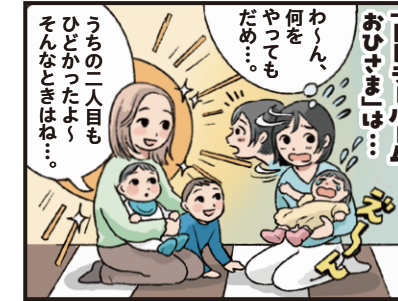
No. 71
Aug. 2026

2026年8月1日発行／学校法人 大阪国際学園 企画・広報校友課
〒570-8555 守口市藤田町6-21-57 TEL.06(6902)0787(代) FAX.06(6902)8961 Eメール koho@oiu.jp

<https://www.oiei.jp/gm/>

GM四コマ劇場 vol.14

おひさまがいっぱい



作者：ナオコ

幼児保育学科の
久保田先生も遊びにくるよ！

大学では理学部物理学科に所属し、流体力学の研究に没頭していた守口先生。しかし、その後進んだ大学院では教育学を専攻することに、「大きな転機となったのは大学4年生の時、司法試験への挑戦に挫折して将来の希望を見失って苦しむ兄の姿を見たことでした。それまで信じていた『いい大学に入り、難しい資格を取れば幸せになれる』といった日本の、幸せの方程式に強い疑問を抱き、一人の人間が真に幸せな人生を送るための土台を作る教職の道へ進むことにしたのです」。

そうして理科の教員となった先生は、前任校でJICA出身の同僚と出会い、世界の貧困国の一つであるアフリカのマラウイ共和国へ教育視察に行く機会を得る。そこで待ち受けていたのは停電、断水が当たり前で、水を汲みに片道一時間かけなければならぬハードな環境。しかし、現地の人々は信じられないほど優しく、心に満ち溢れた余裕を持っていたという。「日本人の感覚からすると不便だらけ。それなのにどうしてこんなに他人に優しくできるのか？が不思議でした。そこで現地の高校生に「アフリカに生まれたことを後悔することはある？」と尋ねると、「友達と一緒にいるから全然アパハンビーじゃないよ。なんでそんな問いが生まれるの？」と反対に驚かれたとか。完璧なシステムの中で少しの逸脱も許されないような生きつらさのある日本に、対し「アフリカには、人はもともと不完全なものだから、補い合って当たり前」という、ありのままを受け入れる温かさがありました。私はこの体験を通じて、不完全な自分や他人を受け入れることが、その真の幸せにつながるのだと確信しました」。

この経験は、担当している探究学習の授業にも深く息づいている。「探究は答えや正解のない教科。授業では生徒が身の回りの素朴な疑問から独自の問いを立て、それをフッシューアップしていくプロセスを伴走します。生徒たちに学んでほしいのは、たとえ粗削りでも自分に何ができるかを考え、自身の可能性を社会に還元していく力です。世界で起きている様々な事柄の背景に関心を持ち、自分なりの問いをもとに行動することで社会にいい循環を広げていける力を養ってほしいと願っています」。



大阪国際中学校高等学校
探究部理科
守口 佳孝 教諭

素顔の先生たち
Hi Teacher!

将来は日本とアフリカの高校生をオンラインでつなぐ場所ができれば価値観もこれほど違つたのだと肌で感じあえる場を作りたいと願う。「大人と子ども、学校と社会、そして日本と海外といったあらゆる境界線を超えて、人と人が深くつながれる場をたくさん生み出していきたいです」。教室に飾られた「チテンジ」の布はマラウイの大切な象徴。不完全な部分も素直に受け入れあえる雰囲気づくりは、自身のクラス運営にも存分に発揮されている。



生徒たちに自分の感情を抽象画にしてみたい、ロッカーに飾った教室。色とりどりのアフリカの布「チテンジ」とともに、「もっと自由に自分を表現していこう」というメッセージを伝えている。

独白

大阪国際学園
理事長 奥田 吾朗

致知

小学校4年生の子どもが、宿題を見て欲しいと自慢気に見せに来た。「青色の不思議」という題で、青色について細かく記述されていた。すごく嬉しそうに私を見つめる子どもにどの様に応えるか、正直迷った。

というのも、内容は高校生、大学生が書くようなレベルの専門用語が並んでいたからである。当然、その意味を小学生が知っている訳がない。私の子どもたちの通う小学校では、タブレット端末が配られ、それを使った教育を積極的に推進しているようだ。皆さんは「こどもじてん」を覚えているだろうか。子どもの知る知識で、様々な標語を解説していた。

国が高らかに進める先端教育、デジタル教科書を含め、様々な先端技術が導入されていく。本当に大丈夫なのであろうか。薬が認可される時、あれほど慎重に選定されるのに、子どもたちにも無頓着に扱われていると感じる。一度取り入れたとしても、他国の様に立ち止まる勇気が日本にあつて欲しいと願う。

- 本誌に記載の学年、肩書き等はすべて情報収集時のもので、発行時とは異なることがあります。ご了承願います。
- 本誌へのご意見、お問い合わせ等は大阪国際学園企画・広報校友課までご連絡ください。

各学校の最新ニュースは公式サイトで
ご覧いただけます。

大阪国際学園

検索

この印刷製品は、
環境に配慮した資材と
工場で製造されています。

学校法人 大阪国際学園
大阪国際大学
大阪国際大学短期大学部
大阪国際中学校高等学校
幼保連携型認定こども園
大阪国際大和田幼稚園

2026年4月1日より大阪国際大学 大阪国際大学短期大学部および
大阪国際中学校高等学校に、それぞれ新たな学長と校長が就任いたしました。

知識と経験を融合して 一人ひとりの可能性を広げる



大阪国際大学 大阪国際大学短期大学部
学長 久保田 豊司

私は1986年に着任して以来、約40年にわたり学生たちと向き合ってきました。その中で確信しているのは、学生は誰もが計り知れない可能性を秘めているということです。本学はこれまで、「国際交流」「地域協働」「課外活動」の三本柱を掲げ、机上の学びだけでは得られない多様な経験の機会を提供してきました。異なる文化に触れること、地域の人々と関わることで、仲間とともに挑戦すること。その一つひとつの体験が学生の視野を広げ、自ら考え、行動する力を育んできたのです。私はこの三本柱を本学の魅力として、今後も継承していきたいと考えています。もともとこれらの活動は、大学教育の根幹をなす授業や学修成果の上に成り立つものであり、授業がもっとも大切であることは言うまでもありません。大学は知識や専門性を身につける場であると共に、学ぶことの面白さや奥深さに出会う場でもあります。新しい発見に心を動かされ、自ら問いを立て、考え続ける。その積み重ねが、人としての豊かさを育んでいくのだと思います。大切な

のは、学びと体験を別々のものとして捉えないこと。授業で得た知識が地域活動や国際交流の場で生かされ、そこでの経験が新たな学びへの意欲を生み出す。そうした有機的なつながりの中で、学生たちは大きく成長していくのです。人間が人間らしく生きていくための、知識と経験の融合。それこそが本学の建学の精神である「全人教育」そのものであると私は思います。

加えて本学はこれから学生だけでなく地域にとっても身近で開かれた大学を目指します。大学には、教員の知見や研究成果、学生の活力など多くの財産があります。これらを学内だけに留めるのではなく、地域の人々と分かち合いながら共に未来を育んでいきたい。この春にスタートした「トドラールーム おひさま」は、まさに象徴的な取り組みの一つ。大学が持つ資源を地域に還元し、世代を超えたつながりを育むことで、新たな学びや価値が生まれていくことを期待しています。

最後に、学生の皆さんは、ぜひ今という時間を大切にしてください。何か一つでも夢中になれることを見つけ、積極的に挑戦してください。挑戦には失敗を伴うこともありますが、トライアンドエラーの積み重ねこそが自身の栄養となるでしょう。本学はこれからも、一人ひとりの学生に寄り添いながら、それぞれの持つ力を最大限に引き出し、自分らしい未来を切り拓いていけるよう支えていきます。

周囲に感謝する心と 自分を信じる力を育みたい



大阪国際中学校高等学校
校長 高江洲 良昌

大阪国際中学校高等学校には、長い歴史の中で培われてきた素晴らしい伝統があります。着任して間もない私ですが、生徒たちや先生方と接する中で、その精神が今も確かに息づいていることを実感しています。例えば先日、幼児保育進学コースの実習を見学した際に、子どもたちに寄り添う生徒たちの姿に深い感銘を受けました。誰かに教えられたからではなく、自然に幼い子と同じ目線に立ち、相手の気持ちを考えながら行動する姿には「人を思いやる心」や、「他者を尊重する姿勢」が表れていました。私はこうした本校ならではの良さを、これからも守り続けていきたいと考えています。一方で、若者にとっては、未知のことに踏み出す好奇心や行動力も欠かせません。社会は急速に変化し、正解のない課題に向き合う場面がますます増えています。だからこそ自ら考え、未来を切り拓く力を身につけてほしいと思うのです。

いるのは「感謝する心」と「自分を信じる力」を育むことです。人は決して一人で生きているわけではありませんが、自分が周囲に支えられていることに気づき、「ありがとう」と素直に伝えられる人になってほしい。私はこれまで、感謝の心を持つことで多くの人のつながりに恵まれ、自らの世界を大きく広げていく例を見てきました。また同時に、自分自身を信じられる人になってほしい。困難に直面したとき、最後に自分を支えてくれるのは自信です。生徒たちが自分の可能性を信じられるよう、本校の教職員は皆さんの変化や努力を丁寧に見つめながら「あなたならできる」と伝え続けていきたいと考えています。

そんな思いを皆さんに届けるため私は就任以来、毎日ブログを更新しています。言葉には人の心を動かし、背中を押す力があると信じているからです。日々感じたことをできるだけリアルなタイミングで発信していますので、ご覧いただければ幸いです。これからも本校が、生徒一人ひとりとともに安心して挑戦できる場所であり続けられるよう努めます。そして感謝の心と自分を信じる力を胸に、それぞれが自分らしい未来を歩んでいけるよう、全力で伴走していきます。



高江洲校長のブログ

特集

地域の子育て交流の拠点 「トドラールーム おひさま」始動！

2026年4月1日(水)、大阪国際大学短期大学部の学内に、大阪国際学園子育て支援センター「トドラールーム おひさま」がオープンしました。大阪国際学園が守口市の委託を受けて、地域の子育て家庭を対象にさまざまな「つながりの場」を提供するこの施設では、世代を超えた交流が活発化しています。

こども園、中高、短大、大学とも連携しながら、学園全体で地域の子育て支援に取り組む「トドラールーム おひさま」。「そこを起点とした「地域共創」のあり方を、教員や施設スタッフ、保育に関わる学生たちの声から考えます。



「トドラールーム おひさま」を起点に、
さまざまなつながりを育みます



子どもの観察眼によって絵のミスに気づいたお話や、読者を飽きさせない工夫などを紹介。身近な話題から親子の知的好奇心を刺激する内容でした。

毎回多彩な先生方が登場する 月に1回以上の講習を開催

「トドラールーム おひさま」では、幼児保育学科の先生以外にも、経営経済学部先生による「子育てにかかるお金の話」や、国際教養学部のネイティブの先生による英会話講座など、大阪国際学園のもつポテンシャルを最大限に活かして子育てを支える学びを提供しています。



また、外部の講師をお招きしての子育て講座も年に1～2回開催。過去には、PHP研究所 児童書出版部長・阿部聡子氏をお迎えして『な～ぜ な～ぜ 絵本って?』という絵本ができる過程のトリビアをお話いただき、好評を博しました。

【ご協力：紀伊國屋書店】

0～2歳児とその親御さんは 誰でもウェルカム

「トドラールーム おひさま」の対象となるのは、0～2歳の未就園児とその親御さん。初回に利用者登録をするだけで、次回からはいつでも自由に遊ぶことができます（予約は不要です）。

利用するごとに押してもらえ「スタンプカード」もあり、スタンプが50個／100個たまると素敵なプレゼントがもらえる特典も。大阪国際大和田幼稚園の先生による絵本の読み聞かせや、身長と体重が測れる「すくすく健診」など、子どもの成長や地域に関わる催しも定期的に開催しています。



ご利用
について

（開園日）平日
（開園時間）9:30～15:00
（休園日）土・日・祝日

（定員）おおむね15組
（利用料金）無料
（その他）ベビーカー置き場・駐輪場完備

今後のイベントをご紹介→P5へ

併設の幼稚園や大学で開かれる さまざまなイベントにご招待



「絵本の読み聞かせ」



大阪国際大和田幼稚園が月2回ほど開催する「トドラデー（園庭開放）」に、おひさま利用者も参加できます。園庭で駆けまわったり、園のホールを使っての体操教室や人形劇など、親子で楽しめるイベントが盛りだくさん。運動会ごっこでは、大学の広いグラウンドを



「親子で楽しくリフレッシュ運動」

使ってのびのび体を動かせるなど、大阪国際学園の施設全体をフルに活用して、心と体を豊かに育む体験を提供しています。

トドラールーム おひさま 笑顔と未来の ひろばへようこそ！

地域×学生×大学が
子育てで連携！
短大の一室から始まった
地域交流と学びの拠点。

その施設としての魅力と
大学の地域貢献のあり方、
そこから生まれる
よりよい未来に迫ります。

保育スタッフにささいな ことから相談できる

「トドラールーム おひさま」には、保育士や子育て支援員の資格を持った経験豊富なスタッフが常駐しています。子どもたちが遊ぶ様子を見守るとともに、「食べ物の好き嫌いが激しくて…」や「夜泣きがひどくて大変…」など、誰もが経験する子育てのお悩みにあたたかく寄り添い、アドバイスをしたり、公的支援につなげるお手伝いも行います。



地域に顔なじみができますよ

在宅での子育てに孤独はつきもの。しかも今は情報だけで、「何が正しいのかわからない」と悩む親御さんも多いことでしょう。日々感じるほんのちょっとした心配ごと、ここでは気軽に相談できて、共感しあえる仲間も見つかります。子育てで通る道はみんな同じです。日常の「ホットできる時間」を感じ、ぜひいらしてください。



保育士 宮原 智子さん

一歩踏み出すと、喜びは倍以上に！

近年では核家族も多く、ご近所の方との交流も少なく感じられます。開設してから3カ月ほどたちましたが、ここでは親同士の交流や子ども同士の関わりも見られています。「子どもの「できた」を喜び合える人がいるのがうれしい」そんなお声をよくいただきます。乳児さんとお出かけは、最初の一歩に勇気がいるかもしれませんが、嬉しいこと・不安に思っていることなどお話をしに来てくれたら嬉しいです。



保育士 竹松 弥生さん

ボランティアに訪れる 幼児保育学科の学生との交流も

「トドラールーム おひさま」のある場所は、幼児保育学科の学生が普段授業や実習で使う「ほいく棟（7号館）」。そのため、廊下を通ったり、隣の教室で授業を受けたりする学生たちの存在がいつも身近に感じられます。

また、3名を上限に学生ボランティアも常時募集。保育者をめざす学生にとっては保育の現場を体験できる貴重な学びの場になるとともに、利用者にとっては普段ふれあう機会の少ない世代とのつながりが育める場ともなっています。



ボランティアに参加した学生の声をご紹介→P6へ

地域の親子どうしが 常設ひろばで和やかに交流

室内は65㎡でゆったりとした広さがあり、クッションマットを敷き詰めているので、乳児さんも「ごろん！」と寝ころんでのびのび過ごせます。大型遊具ののぼり坂で体を動かしたり、絵本やおもちゃで遊んだり。授乳室やおむつ交換台も備えているので、乳幼児期のお子さんでも安心です。

子どもを通して親御さんどうしがお話したり、子どもたちが仲良くなれたり。地域の交流拠点として活用できます。



保育のプロの対応のしかたや 親御さんとの関わり方が学べます

学 生 VOICE

いつも身近に乳児さんがいる環境で 将来に活かせる経験が積めています

大阪国際大学短期大学部
幼児保育学科 2年次生

野口 綾奈 さん

子どもが好きで、幼い頃から保育園の先生になるのが夢でした。大阪国際大学短期大学部に進学したのも、学内に併設園があり、日常的に子どもたちとふれあえる環境に魅力を感じたから。「おひさま」の開設も、実践的な経験を積むための絶好の場所ができたと思い、ボランティアに参加しました。

「おひさま」の大きな特徴は、保護者の方が同伴されていること。実習先の保育所や幼稚園は子どもしかいない環境だったので、はじめは関わり方や言葉のかけ方に難しさを感じてい

ましたが、スタッフの方々のプロならではの対応や声かけを間近で見ることで、実践的なレパートリーが増えていく手応えを実感！子どもと同じ目線に立って遊ぶことの大切さなど、大きな学びにつながっています。

「おひさま」のあるほいく棟(7号館)は普段の授業でも使っているため、前を通るたびに子どもたちが手を振ってくれるなど、学生みんなの癒やしの場にもなっています。スタッフや学生が温かく迎えますので、地域の親御さんにはひと息ついたり、ママ友作りや情報共有の場として気軽に利用していただきたいです。私自身も子どもたちに寄り添いながら、一緒に成長していけるような保育者をめざして、これからも頑張ります！

大阪国際大学短期大学部
幼児保育学科 2年次生

馬場 優花 さん

私は入学当初、幼稚園の先生をめざしていましたが、実習を重ねる中で「長い目で子どもの成長を近くで見守りたい」と考え、少人数で密に関われる乳児保育の道を志すようになりました。3歳以上が中心となる幼稚園実習とは異なり、2歳未満の乳児さんが多く集まる「おひさま」は、まさに私が求めている経験を積める理想的な環境です。言葉でのコミュニケーションが難しい年齢だからこそ、身振り手振りや、音を出すだけで笑ってくれるようなやり取りに、日々楽しさを感じています。

保護者の方がいる中でお子さんと関わるため、距離の取り方に難しさを感じることもありますが、だからこそ「ぜひ遊んでみてください」と温かく受け入れてもらえることが大きな励みに。さらにここでは親御さん同士が日々のリアルな育児の悩みを相談し合う姿にふれることもでき、大学の授業や幼稚園では得られない貴重な学びとなっています。

学内に「おひさま」のような場所があり、空き時間に当日でもふらっとボランティアに参加できるシステムは、保育を学ぶ学生にとって大きなメリットだと思います。ここで多くの経験を積み、将来は子どもたちだけでなく、保護者の方からも深く信頼される保育者になりたいです。



高 校 生 VOICE

夢を実現するための環境が 身近にできたことがうれしい！

保育士をめざしている私にとって、3年で5回実習がある幼児保育進学コースはとても学びが多い場所です。実習を経験するたびに、「前年からどのように成長できたか」がわかってやる気につながったり、来年に向けた備えもできるからです。

「トドラールーム おひさま」が誕生したことで、実習以外にも0～2歳児さんや、さらには保護者の方々ともやりとりができる場が増えたことがうれしいです。高校生もボランティアやイベントに参加できるようになれば、授業や実習で学んだことをフルに活用して、実践的な対応力を磨いていきたいです。

大阪国際高等学校 幼児保育進学コース 3年生

佐藤 祥瑛 さん



幼児保育進学コースの高校生たちにとっても今後、よい教育実践の場となりそうです♪

高校でも毎年保育園実習はありますし、生徒たちが主体となって近隣の幼稚園児をお招きする「ふれあいまつり」などで地域の子どもたちと関わるチャンスはあります。ただ、そこで誰もが0～2歳児とふれあえるわけではないので、みんな「トドラールーム おひさまに行ってみよう！」と興味シンシンです。

高校生もここで活動ができるようになれば、大切な命を預かる責任感がより一層強くなったり、来園される保護者の姿から「自分も大切に育ててもらっていたんだな」というふり返りの機会にもつながるでしょう。また、保護者の方々の生の声を聞くことは、「園だより」を書くときの大きな参考にもなります。まだ本格的な関わりは持っていませんが、生徒たちにとって学びを実践できる場が新たにできたことへの期待はとても大きいです。



大阪国際高等学校
幼児保育進学コース 主担 平田 桂子 教諭

これから開催の子育て講座

2026年8月19日(水) 【開催時間】13:00～13:45

「英語教室 ～よちよち歩きのABC～」

大阪国際大学 国際教養学部 国際コミュニケーション学科
Crowe Owen John講師

2026年9月2日(水) 【開催時間】10:00～10:45

子どもの「挑戦する力」を育てる 家庭での関わり方

大阪国際大学 経営経済学部 経営学科
佐々木 紀夫教授



その他、毎月いろんな講座が盛りだくさん！

「トドラールーム おひさま」のイベント講座(一例)		【開催時間】10:00～10:45
9月18日(金)	「子どもの教育費、どう考える? ～家庭・学校・地域で支えるこれから～」 大阪国際大学短期大学部 ライフデザイン学科 林 兵磨教授	
10月6日(火)	「子どもの歯と歯みがき講習」 大阪国際大和田幼稚園 二宮 知春先生	
11月9日(月)	「好きな自分でいられる保育 ～グローバルマインドをもった子ども～」 大阪国際大学短期大学部 幼児保育学科 吉田 貴子教授	
12月14日(月)	「乳児の健やかな心と身体を育む関わり方」 大阪国際大学短期大学部 幼児保育学科 北村 麻樹講師	

「親子わくわく体操」や「絵本読み聞かせ」は月に一回、定期的に開催しています！

INTERVIEW

子どもたちと保護者の 笑顔を育む居場所



大阪国際大学短期大学部
幼児保育学科長 久保田 健一郎 教授

近年、子育てを取り巻く環境は大きく変化しています。かつては地域の中に自然にあった助け合いの関係は薄れ、発達に関する情報など必要な知識は年々複雑になっています。結果、保護者が一人で悩みや不安を抱えることもしばしば。だからこそ子育てを家庭だけで担うのではなく、社会全体で支える仕組みがこれまで以上に不可欠です。こうした時代にあって「トドラールーム おひさま」のような存在は重要だといえるでしょう。保護者が子どもと一緒に安心して過ごせるだけでなく、スタッフや他の利用者と交流ができ、悩みや喜びを共有できる場所は子育ての不安を和らげる心強い存在となります。また子どもたちにとっても、家庭以外の大人や同年代の友だちと出会う経験は、豊かな成長につながります。多様な人との関わりの中で子どもは育ち、大人もまた支えられていくのです。

さらに「おひさま」でボランティアとして活動する幼児保育学科の学生にとっても、ここの経験は貴重です。子どもだけでなく保護者とも接する機会があるからです。保育の仕事は子どもの相手だけでなく、親御さんへの支援も重要な役割。しかし教育実習などでも保護者と関わる時間はほとんどありません。学生たちは「おひさま」で子どもとの接し方はもちろん、保護者との距離感やコミュニケーションも実践的に学べるのです。地域の親子にとっての居場所であり、学生にとっての学びの場である「おひさま」。これからの大学には、教育や研究だけでなく、その成果を地域社会に還元していくことも求められています。「おひさま」は、そのモデルケースになるのではないのでしょうか。

女子バレー部が 29回目のインターハイ出場！

大阪府高校総体バレーボール競技(インターハイ大阪府予選)で準優勝を果たした女子バレーボール部が、8月3日から滋賀県で開催されるインターハイへの出場を決めました。通算29回目の出場となる本校は、2026年1月の春の高校バレーでも全国第3位に輝くなど、全国トップレベルの実力を誇っています。昨年度の悔しさを胸に、結束力を武器にした自分たちらしいバレーを展開し、全国上位進出を目指します。皆さまの温かいご声援をよろしくお願いいたします。



男子硬式テニス部が 3年連続インターハイ出場！

男子硬式テニス部が、大阪春季テニス大会で個人戦・団体戦ともに、インターハイへの出場を決めました。個人戦では、中富奏太さん(2年)がシングルス準優勝、橋本琉世さん(3年)がベスト4に入り、ともにシングルス出場権を獲得。また、安藤大貴さん(2年)・中富奏太さんペアがダブルスで優勝し、インターハイ出場を決めました。さらに団体戦では、3年連続となるインターハイ出場を果たすとともに、秋季・春季大阪府大会の団体戦2冠連覇を達成しました。



囲碁部が男女団体・女子個人戦 全国大会への切符を獲得！

囲碁部が第50回大阪府高等学校囲碁選手権大会で輝かしい成績を収めました。団体戦では、男子チーム(小川寛人さん(2年)、松田怜大さん(2年)、山田一太さん(2年))、女子チーム(北本美月さん(2年)、山崎周さん(1年)、石井利於さん(1年))がともに大阪府第2位となり、8月に東京都で開催される全国高等学校囲碁選手権大会への出場を決めました。さらに個人戦では、北本さんが女子選手権戦で優勝、工藤孝浩さん(2年)がAクラス優勝、石井さんがDクラス優勝を果たしました。北本さんは個人戦でも全国大会出場を決めました。



地域教育支援「OIU・OICキッズキャンパス」

地域に愛され続け迎える10年目ー近隣小学校からの厚い信頼ー

本学が位置するよつば小学校区の守口市立よつば小学校の児童の「地域教育支援」(学習支援・居場所づくり)を目的に、2017年度に地域連携組織「OIU・OICキッズキャンパス実行委員会」を本学の地域協働センター、守口市立よつば小学校、守口市社会福祉協議会、守口市民生委員児童委員協議会で立ち上げました。

対象児童は当初は4年生から6年生まででしたが、地域からの期待が大きくなり、全学年に広げました(毎月定員50人程度)。プログラムは、毎月1回(土曜)程度、小学校を借りて大学短大の特色を生かした学生有志企画、クラブ活動企画、学科企画の3本柱で巡る企画で、学生が主体的に運営を行っています。昼食は、守口市社会福祉協議会、守口市民生委員児童委員協議会の皆さまからご提供いただき、児童と学生が会話をしながら摂る「共食」にて現代の課題である「孤食の解決」に貢献しています。この活動に、よつば小学校校長横山美香様からは「学生さんとのふれあいを通じた居場所づくりをテーマとして、大学短大ならではの様々なことが体験できるよい学びの場、楽しい交流の場となっています」と感謝のお言葉をいただいています。

また、今年度の学生有志企画のリーグである国際観光学科4年次生の鶴原巧翔さんは「この活動は家でも学校でもない第3の居場所です。

安心して過ごせて笑顔になれる空間づくりを大切にして、子どもたちに非日常の体験を届けています」と語っています。今後も地域の小学校との連携を深めて、一層地域に根差した活動を実践していきます。



花は咲く、絆も咲くーハーバード大学「Din & Tonics」が本校に届けた歌声

ハーバード大学アカペラグループ「Din & Tonics」が、ワールドツアーの一環として本校を訪問。2012年から隔年で交流を続け、学園への来校は今回で7回目です。図書室での歓迎セレモニーに続き、国際バカロレアコースや国際アンバサダーの生徒と英語で交流し、様々な質問が飛び交いました。中高生にアカペラも披露。「花は咲く」を日本語で合唱する場面では会場がひとつになり、感動に包まれました。長年の交流は異文化理解を深め、世界へ視野を広げる機会となっています。



学園の原点を未来へつなぐー「帝国学園発祥の地」記念碑建立

2026年4月、旧大阪国際滝井高等学校跡地である滝井校地(守口市馬場町)に、「帝国学園発祥の地」記念碑が建立されました。滝井校地は、1929(昭和4)年に帝国高等女学校が開校され、大阪国際学園の歴史が始まった建学の地です。以来、中学校、高等学校、幼稚園が設置され、多くの子どもたちが学び、成長し、それぞれの未来へと羽ばたいていきました。

2024年の大阪国際滝井高等学校閉校をもって、この地は学びの場としての役割を終えました。しかし、約100年にわたり受け継がれてきた教育の歩みと、ここで育まれた数多くの思い出は、決して失われるものではありません。その歴史を後世へ伝えるため、このたび記念碑が建立されることとなりました。

記念碑には、五つの心を撫子の花弁に例えた「なでしこの五徳」や、長く歌い継がれてきた校歌「撫子の花」の歌詞が刻まれています。また、「同窓生の社会での活躍を祈念して、この碑を建立する」という言葉には、学園から巣立ったすべての卒業生・卒園生への温かなエールが込められています。

4月16日に行われた除幕式には、学園関係者をはじめ、地権者の方々や大阪国際滝井高等学校同窓会関係者など、多くのゆかりのある方々が参列しました。学園創立100周年を目前に控えた今、この記念碑は創立の原点を見つめ直し、未来へ向かう新たな一歩を象徴する存在となっています。滝井校地で青春の日々を過ごした卒業生や卒園生にとって、この場所はかけがえのない思い出の地です。記念碑が、世代を超えて学園とのつながりを感じ、懐かしい思い出を語り合う場として、多くの人々に親しまれていくことを願っています。



本学園の在校生・卒業生がスポーツ界で活躍中!! 応援の程よろしくお願いいたします!

大阪国際大学(2026年卒業)

◆フォレスト・リーヴィス熊本入団：辻 咲帆さん(人間科学部 スポーツ行動学科)

大阪国際高等学校(2年生)

◆岡山シーガルズ入団：佐原 菜々花さん

パラオ共和国で学ぶ平和と教育実践

2026年3月2日から8日の7日間にわたり実施された、第1回パラオ研修に本学学生13名が参加しました。

研修のメインは、現地小学校における日本式運動会の企画・運営です。教職課程履修学生を中心に、競技内容や進行方法について出発前から事前研修や現地との打ち合わせを何度も行いました。当日は言葉の壁への不安もありましたが、通訳を目指す学生の協力を得ながら運営にあたり、ジェスチャーや笑顔、身体を動かす活動を通じて子どもたちとの交流を深めました。運動会は大きな成功を収め、参加学生からは「子どもたちの笑顔を見て準備した甲斐があった」「将来教員として必要な力を学ぶことができた」といった声が寄せられました。

また、ペリリュー島での平和学習も重要な目的の一つで、第二次世界大戦の激戦地として知られる同島を訪れ、戦跡や慰霊碑を見学しながら現地ガイドの説明を受けました。学生たちは「教科書やインターネットでは感じられない戦争の現実を知った」「平和の尊さを改めて考える機



会になった」と振り返り、現地を訪れて学ぶ意義を実感していました。

さらに、在パラオ日本国大使館、パラオ教育省、コミュニティカレッジ、JICAへの訪問を通じて、国際協力や教育交流について理解を深めました。

なお、学生たちの視野を大きく広げる機会となった本研修の実施にあたっては、本学園評議員である味覚糖株式会社代表取締役社長の山田泰正様より多大なるご支援を賜りました。ここに深く感謝申し上げます。



「この本、おすすめですよ」が活字になる日ー書評キャンパス挑戦中

本学では、読んだ本の魅力を自分の言葉でつづる「書評キャンパス」への挑戦が続いています。書評専門誌『週刊読書人』の人気企画「書評キャンパスー大学生がスズメの本」では、プロの編集者による丁寧な添削を経て、優れた書評が紙面に掲載されます。2020年から7年連続して掲載者を輩出し、これまでに延べ14名の学生・卒業生が選ばれました。2026年4月には国際観光学科卒業生の阪田勇治さんの書評が掲載され、「書評キャンパスat読書人2026」への収録も予定されています。本を読み、考えたことを文章にする経験は、学生たちの「考える力」「伝える力」をしっかりと育んでいます。



阪田 勇治さん

認定こども園「大阪国際大和田幼稚園」で保育参加を実施

幼児保育学科の角地ゼミでは、併設する認定こども園「大阪国際大和田幼稚園」で保育参加を実施しました。学生たちはままごと遊び、ドッジボールや絵本の読み聞かせ、歌などを通して子どもたちと交流し、日々の保育を実践的に学びました。大学で学んだ知識を実際の保育現場で活かし、子ども一人ひとりと向き合う中で、保育者として必要な実践力やコミュニケーション力を養う貴重な機会となりました。



学友会本部・優花祭実行委員会からのお知らせ!

学生の個性があふれる学園祭!!
今年は新企画も計画中です♪

今年の優花祭のテーマは、投票の結果「Bloom yourself ～新しい自分に出会える～」に決定しました!「個性を咲かせる」という意味が込められたこの造語は、一人ひとりの個性を大切に大阪国際大学や優花祭の姿勢にぴったりで、私自身とても気に入っています。

毎年盛り上がるステージイベントですが、今年は地域の皆様をはじめ来場者の方々も巻き込んで一緒に盛り上げられるような「参加・体験型の新しいイベント」を企画・検討中です。

本学は一日でめわれる規模感だからこそ、来場者の方々とアットホームに関われる良さがあります。優花祭は学生それぞれが持つ個性や日頃の学びの成果、いきいきとした活動の幅を体感できる1年に1度の機会です。ぜひ新しい視点から、卒業生や地域の皆様にも気軽に楽しんでいただきたいと思います。



大阪国際大学 経営経済学部
経営学科 3年
学友会 会長
菊池 萌絵 さん

大阪国際大学 人間科学部
心理コミュニケーション学科 3年
優花祭実行委員長
池上 修生 さん

魅力が凝縮された2日間を、
笑顔いっぱい楽しんで!

前実行委員長の責任感ある背中に憧れ、自分自身も大きな挑戦をしてみたいという強い思いで立候補しました。「池上の色の委員長をやしてほしい」という先輩からの温かい言葉を胸に、自分らしさを大切にしながら運営に励んでいます。

今最も注力しているのは、学生たちの熱量を高めること。そのエネルギーを地域へ伝え、一体となって達成感を共有したいと考えています。今年はより多くの方に届くよう、SNSだけでなく駅へのポスター掲示など広報活動の強化も模索中です。優花祭は模擬店やステージ企画が凝縮されていて、一日ですべての魅力を体験し尽くせる強みがあります。日中は活気ある模擬店を巡り、最後は毎年満席になる恒例のピンゴ大会やアーティストライブで、へとへとになるまで遊び尽くして笑顔で帰っていただけたらうれしいです。

<Day1>
10月31日(土)
<Day2>
11月1日(日)
開催場所
大阪国際大学

お笑い
ライブも
あります!

AM 10:00
START!

学 園

第40回 奥田メモリアルフェスティバル

アルゼンチンタンゴのすべて ～情熱のタンゴ!? だけじゃない!!～

聞き馴染みのあるようで、実は奥深いアルゼンチンタンゴ。伝統的なタンゴから、ピアノによる革新、そして現代へと続く新たな表現まで――。

国内屈指の実力派演奏家による五重奏ユニット「セレステ・キンテート」と、タンゴダンスのトップペア「ミキ & エルネスト」が、「生きているタンゴ」の魅力をお届けします。

演奏予定曲
●リベルタンゴ
●ラ・クンパルシータ
●想いの届く日 ほか



- 日時 2026年11月20日(金)
18:30開演(コンサートは、80分程度)
- 会場 大阪国際大学
奥田メモリアルホール(大阪国際学園)
- 入場無料(事前申込制)



グローバルマインド71号 特別先行応募期間8月20日～8月31日

抽選で50組 合計100名

★当選者には、メールにて連絡いたします。
(一般の申込みは、9月1日～9月30日まで)

お申込みは
こちら



地域協働センター
公式YouTube



公開講座(2025→2020年度)や
ボランティア活動情報を掲載



地域協働センター公式HP



大阪国際学園が1987年から開催する文化・芸術イベント「奥田メモリアルフェスティバル」。地域の皆さまに豊かな芸術文化に触れていただく機会として継続開催しています。

学 園

「大阪国際学園ファミリーバンド」を結成! 卒業生が音楽を通じて地域貢献できる場をつくる

設立10年目を迎え、新たな挑戦へ!

芸術文化教育センターは今年で設立10年目を迎えました。本センターは、世界を舞台に学ぶ学生たちが自国の文化や幅広い芸術・文化の素養を身に付ける場を提供すると同時に、それらの発信を通じて大阪国際学園と地域を結び付け、地域社会を豊かにする拠点となることを目的としています。これまで華道講座の実施をはじめ、大学・短大の吹奏楽部による守口市議会場でのコンサート、演劇サークルによる「もりぐち歴史館」朗読劇など、様々な活動を通じて地域との交流を重ねてきました。特に今年度の大きな挑戦としては「大阪国際学園ファミリーバンド」の結成があります。これは旧大阪国際滝井高等学校、旧大阪国際大和田高等学校、大阪国際高等学校、大阪国際大学・大阪国際大学短期大学部の卒業生や在学生、学園教職員ら約70名で構成する吹奏楽団で、単なる同窓生同士の交流にとどまらず、音楽を通じた

芸術文化教育センター
よりお知らせ

地域貢献の基盤づくりを目指した活動です。その背景には、国が中学校の部活動の地域展開を推進していることがあり、学校生活と一体となって音楽や芸術に親しみ、専門的な指導を受ける機会が減少することも懸念されています。こうした状況を踏まえ、「大阪国際学園ファミリーバンド」が将来的に高い教育的視点を持って地域の中学生たちの音楽指導を担える団体へと発展することも目指しています。そして来年3月には初のコンサートも予定しています。

大阪国際学園には、あらゆる分野で地域に貢献できるスペシャリストが揃っています。そのような中で、私たちは音楽や芸術を通じて地域の方々がいきいきと暮らす一助となれるよう、次の10年へ向けて歩みを進めてまいります。これからさまざまなイベントを企画してまいりますので、今後の活動にご期待ください。

大阪国際学園ファミリーバンド結成コンサート

- 日時 2027年3月22日(月) 14:00開演
- 会場 奥田メモリアルホール(大阪国際学園)

本楽団は学園各校の卒業生や在学生、教職員らによって結成された新たな吹奏楽団です。学園が育んできた吹奏楽の伝統を受け継ぎながら、世代を超えた交流と連携を深め、地域文化の発展に貢献することを目指しています。記念すべき初公演をお楽しみください!

大阪国際学園 芸術文化教育センター長



朝倉 洋氏

大阪国際大学短期大学部名誉教授。関西フィルハーモニー管弦楽団ホルン奏者を経て、大阪国際大学短期大学部に奉職。多くの市民オーケストラや吹奏楽団に指導者として招かれるほか、吹奏楽コンクールの審査員や自治体の文化振興審議委員などを務める。2017年、芸術文化教育センター長に就任。

第22回 ブロッサムコンサート

- 日時 2026年9月27日(日) 14:30開演
- 会場 奥田メモリアルホール(大阪国際学園)

大阪国際大学・大阪国際大学短期大学部吹奏楽部と大阪国際中学校高等学校吹奏楽部が、それぞれの魅力あふれるステージと迫力ある合同演奏を披露します。学園吹奏楽の伝統と絆が織りなす華やかなコンサートとして親しまれてきた本公演。心豊かな音楽のひとときをお楽しみください。



第3回 ハッピーハロウィンデー (共催:大阪国際大学短期大学部)

- 日時 2026年10月25日(日) 13:00～16:30
- 会場 奥田メモリアルホール(大阪国際学園)

大阪国際大学・大阪国際大学短期大学部吹奏楽部による演奏やゲストバンドのステージに加え、栄養学科教員・学生による親子和菓子教室や子ども焼菓子教室を実施予定。音楽と食を通じて親子で楽しく学び、交流できる人気のイベントです。

- 和菓子教室(小学生の親子) 10組
 - 焼き菓子教室(小学校4年以上) 12名
- 申込み締切日は、2026年10月6日(火)まで
※10月9日(金)当選者のみにメールにて通知予定。
★吹奏楽部の演奏は事前申込み不要



お菓子教室は、
事前申込みが
必要です
(小学生のみ)

お菓子教室
のご予約は
こちらから♪



第4回 ママブラス・フェスティバル

- 日時 2027年2月28日(日) 14:00～16:00
- 会場 奥田メモリアルホール(大阪国際学園)

守口市、門真市、寝屋川市、枚方市、吹田市で活動するママブラス4団体が集い、子育てと音楽活動を両立するメンバーが心温まる演奏を披露します。団体どうしの交流や技術向上を目的とするともに、地域の皆さまに世代を超えた音楽の楽しさを届ける演奏会へぜひお越しください。



第5回 守口市中学校吹奏楽フェスティバル

- 日時 2027年3月21日(日) 14:00～16:00
- 会場 奥田メモリアルホール(大阪国際学園)

守口市内の中学校と大阪国際中学校の吹奏楽部が一堂に会し、日頃の練習の成果を披露します。学校の枠を超えた交流を通じて演奏技術の向上を図り、地域の皆さまに吹奏楽の魅力をお届けする恒例イベント。若さと熱気あふれるステージをぜひお楽しみください。



OB OG MESSAGE
活躍する、卒業生たち

そう思った時、壁の向こう側へいった

「完璧な自分でなくていい」



ヴィアティン三重・四日市
バレーボール

バレーボール事業部 バイスディレクター

Miyashita Haruka

宮下 遥さん

大阪国際大和田中学校・大阪国際滝井高等学校 出身（2013年卒業）



＜経歴＞
大阪国際滝井高校→岡山シーガルズ
元全日本女子バレーボール代表
（2010～2017年、2019～2022年）
リオデジャネイロ五輪出場（2016年）

＜受賞歴＞
2010年 第59回黒鷲旗大会 若鷲賞受賞
2013～14年 Vプレミアリーグ 敢闘賞受賞
ベスト6選出
2016年 岡山県スポーツ特別顕彰受賞
2018～19年 V.LEAGUEオールスター選出
2019年 Vリーグ栄誉賞受賞
2024年 第72回黒鷲旗大会 黒鷲賞受賞
ベスト6選出

三重県桑名市出身の私は、中学生の頃から親元を離れて寮生活を送っていました。バレーボールをしているからといって勉強を疎かにしてはいけないうと、移動時間などで提出物を仕上げ、発表なども必ず最後まで取り組んでいた姿を先生方はきちんと見ていてくださり、子どもながらに誰かに認められるうれしさや安心感を感じていました。高校時代はバレーボール中心の生活でしたが、最大限に練習に打ち込める環境で結果を出すことができました。

プロになつてからはオリンピックも経験。世界を相手に戦うことは常に結果が求められ、どんなに好きなバレーボールでも楽しさを感じている余裕はありませんでしたが、チームでの密なコミュニケーションを大切に、勝利できた瞬間の達成感は何ともいえないものでした。

当時は緊張もしましたし、よく壁にもぶつかりました。ただ、弱気な状態で完璧を目指すことはできません。そこで私は、完璧でない自分を受け入れることに。時間はかかりましたが、自

分の中で「頑張ろう」となった時、立ちほだったいた壁を乗り越えられたと感じました。

「私はどうしたいか」で決断を——
それが自分らしい人生につながっていく

現在はチームを支える裏方として新たな挑戦をしています。現役時代の経験がそのまま通じる場面は多くありませんが、競技を通じて学んだ「誰かのために頑張る姿勢」は活かされていると感じています。

今後の目標は、地元でバレーボールをさらに広め、多くの方に応援してもらえるチームを作ること。自身の経験をもとにバレーボールの魅力を届ける方法を日々模索しています。

多くの情報にふられる今、自分で考えて自分なりの信念を持つことが難しくなっているのではないのでしょうか。進路の選択をはじめ、何かを決断する瞬間に向き合うことになった時、「SNSに書いてあるから」や「まわりがいつているから」ではなく、自分の意志で進んでください。「私はどうしたいか」を大切に、自信を持って自分の人生を歩んでほしいと思います。

熱中// クラブ最前線



大学

陸上競技部

Track and Field Club

全国トップクラスの
「伸び率」を誇る部活

創部は1997年、部員は女子のみの8名でした。しかも練習環境は今のようなトラックもなく、土のグラウンド。そんなスタートから約30年、現在では100名を超える部員が所属するクラブへと成長し、2018年には関西インカレ男子一部昇格を果たすなど、着実に実績を積み重ねてきました。

一般的に大学スポーツの強豪校といえば、高校時代から活躍した選手が集まるイメージですが、大阪国際大学の陸上競技部は少し違います。「入学時に全国レベルの学生は、実はそれほど多くありません。むしろ大学で伸びる選手が多いんです」と語るのは、設立当初からチームを率いてきた顧問の小倉幸雄先生です。その言葉通り、陸上雑誌に掲載された「4年間で最も伸びた学生を探せ」特集では、多くの選手が1位にランクインという快挙を成し遂げています。そこには、小倉先生による独自の指導方針がありました。

成長につながる練習と、
いくつかの転機

「施設は十分ではなく、練習時間も限られている。でも、その中でどう伸びるかをずっと考えてきました」。そう話す小倉先生はスポーツ科学やコーチングを専門とする本学の教授。その知見を生かし、長時間の走り込みや必要以上のトレーニングではなく、身体の使い方を徹底して改善する練習方法を研究してきました。「ただ鍛えるのではなく、自分の身体を理解するのが重要」というそのアプローチが高い成果につながっているのです。

躍進の理由はそれだけではありません。2015年に人工芝・全天候型グラウンドが完成し、練習環境は大きく向上しました。充実した環境のもと、「強くなりたい」「一歩校に上がりたい」という強い気持ちを胸に練習に励んだ学生たちは、2018年に悲願の「一部校昇格」を達成。同年にはスポーツ行動学科の男女共学化もスタートし、環境と組織の進化とともにチームはさらなる飛躍を続けています。さらに地域での指導支援ボランティアやシンガポール国立大学とのスポーツ国際交流など、学外で経験を積み取り組みも、学生たちの成長を一段と加速させる要因となりました。

競技性と人間性、
その両方を育てる

陸上競技部が目指すのは、単に記録の更新だけではなく、競技性と人間性、その両方を伸ばしたいのです。小倉先生が掲げる言葉にはスポーツにおける理想の姿が集約されています。競技性では、全員が自己ベスト更新を達成し、確かな実力向上につなげていくこと。人間性の面では仲間とのコミュニケーションを通して自覚と責任を育み、主体性を高めること。全国トップクラスの「伸び率」を支えるのは、こうした競技性と人間性の両面から選手の成長を支える育成方針ではないでしょうか。



副学長
(地域協働・課外教育担当)
陸上部顧問
小倉 幸雄 教授

大阪国際学園は2029年に創立100周年を迎えます。この節目に向けて、大学・短大・高校・中学校・こども園など、**学園とのご縁が三代、四世代にわたって続くご家族を募集しております。**「親子三代で学園に通った」「祖父母からお孫さんまで卒業生」などのエピソードをお持ちの方は、ぜひお知らせください。あわせて、在学当時のお写真やアルバム、思い出の品などもご提供いただけますと幸いです。皆さまの大切な思い出とともに、大阪国際学園100年の歴史を未来へつないでまいります。ご協力をよろしくお願いいたします。ご連絡は、企画・広報校友課 koho@oiu.jp まで。

三窓会

62期生が「二十歳の集い」を開催

皆さんこんにちは。三窓会会長で43期卒業生の岩本です。日頃より三窓会の活動にご協力いただきましてありがとうございます。この1年間の活動を振り返りますと、一番大きな行事は62期生の二十歳の集いでした。この行事は62期生自ら企画したもので、開催時期、場所、内容の検討を時間をかけて行い、2026年3月20日(金・祝)にホテルグランヴィア大阪で開催することができました。お世話になった先生方も含めて約140名にご参加いただき、とても賑わっていました。三窓会としてもこの行事の開催を手伝うことができ嬉しかったです。

来年には三窓会は設立65周年となります。2027年の11月頃に記念式典の開催を予定しておりますので、続報をお待ちください。また、昨年より近年の物価高騰への対応やお知らせの効率化を図り、皆様からいただいている会費をより有効に使えるよう三窓会公式のLINE

を始めました。本紙面にQRコードを貼付しておりますので、この際には是非友だち登録をお願いいたします。総会のお知らせや会報の配信などを予定しており、今までよりも身近に三窓会を感じていただけるよう役員一同取り組んでまいります。



二十歳の集いの様子



三窓会公式のLINE



三窓会
岩本 和也会長

定例総会のお知らせ

今年度の定例総会を下記の通り開催いたします。三窓会会員の皆様のご参加を心よりお待ちしております。

日時：2026年9月19日(土)
14:00～15:00(受付開始:13:30)
場所：大阪国際中学校高等学校内
自習室5(1階食堂横の教室) 予定

議案：会計報告
現況報告
その他

同窓会 三窓会
〒570-8787 守口市松下町1番28号(大阪国際中学校高等学校内)
e-mail:sansoukai_mail@yahoo.co.jp
三窓会のブログ:https://ameblo.jp/sansoukai/

くすのき会

第1回くすのき会総会が開催されました ～新たな歩みのスタート、新役員陣が決定～

2025年11月30日(日)、大阪国際高等学校講堂棟において、「第1回くすのき会総会」が盛大に開催されました。当日は、奥田理事長、田村校長先生をはじめ多くの先生方にご臨席いただくとともに、多数の会員の皆様にご参加いただき、終始和やかな雰囲気の中で議事が進行されました。総会では、今後のくすのき会運営を担う新役員の選任が行われ、出席会員の皆様の承認をもって新体制が発足いたしました。新役員の皆様には、会員相互の親睦と母校とのさらなる連携強化に向け、ご活躍いただくことが期待されています。

新役員は、以下のとおりです。

新役員体制(敬称略)

会長	波戸根 彩帆	会計	川口 杏奈、長井 美優
副会長	榎本 日菜、坂本 千暖	会計 監査	本宮 美桜、森田 未来音
書記	森山 隼		

～お知らせ～
2026年第2回くすのき会総会開催決定!!
2026年11月29日(日)15時～開催
場所:大阪国際高等学校 講堂棟

申込フォーム
はコチラから



【新会長挨拶】

このたび、くすのき会初代会長を拝命いたしました波戸根 彩帆です。身に余る大役ではありますが、その責任の重さを受け止め、精一杯務めてまいります。本同窓会は新たに設立されたものではありませんが、前身の学校が培ってきた伝統をしっかりと受け継ぎながら、その歩みの上に築かれていくものだと考えております。これまでの歴史と想いを大切にしつつ、新しい学校としての同窓会の形を少しずつ育てていければ幸いです。本校はまだ歴史の浅い学校ではありますが、今後卒業生の皆さま一人ひとりの歩みが重なり、その積み重ねが同窓会の新たな歴史となっていきます。同窓会は、卒業後も世代を超えてつながり続ける大切な場です。旧友との再会や新たな交流を通じて、母校との絆を深める機会となることを願っております。まだ始まったばかりで至らぬ点も多いかと存じますが、皆さまのお力添えをいただきながら、より良い同窓会を築いていきたいと考えております。

今後とも変わらぬご支援・ご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。第2回くすのき会総会は2026年11月29日(日)を予定しております。皆様のご参加をお待ちしております。



くすのき会
波戸根 彩帆会長

同窓生の皆さま!
ぜひ同窓会のイベントに
お越しください♪



同窓会NEWS

このたび『GLOBAL MIND』では、新たに「同窓会ページ」を開設いたしました。

卒業生・在校生・保護者の皆さまをつなぐ情報を発信し、世代を超えた交流の輪を広げてまいります。

大阪国際大学・大阪国際大学短期大学部同窓会

同窓会統合15周年記念式典開催

2026年3月8日(日)、KKRホテル大阪において「大阪国際大学・大阪国際大学短期大学部同窓会 統合15周年記念式典」が開催されました。当日は多くの同窓生ならびに学園関係者が出席し、統合15周年という節目を祝う盛大な式典となりました。

会場には多数の祝花が寄せられ、華やかな雰囲気の中で参加者をお迎えしました。受付開始後には、久しぶりの再会を喜び合う姿があらこちらで見られ、開会前から和やかな交流の輪が広がりました。世代や学部を超えて語り合う同窓生の姿からは、長年にわたり培われてきた母校への愛着と絆の深さを感じられました。

第1部の記念式典では、同窓会会長の山崎真吾氏が開会のあいさつを行い、三会統合から15年を迎えられたことへの感謝と、さらなる同窓会活動の発展に向けた決意を述べました。続いて、学園を代表して理事長の奥田吾朗氏より祝辞が贈られ、同窓会と学園との連携の重要性や、卒業生への期待について温かい言葉が寄せられました。

記念講演には、アーティストックススミシング元日本代表ヘッドコーチの井村雅代氏を講師としてお迎えしました。「人を育てること」「挑戦し



続けること」をテーマに、ご自身の豊富な指導経験をもとに語られたお話は、参加者一人ひとりの心に深く響き、大きな感動を与えました。

第2部の懇親会では、2026年度学長に就任した久保田豊司氏の乾杯の発声で歓談がスタート。各テーブルでは思い出話や近況報告に花が咲き、世代を超えた交流が活発に行われました。新たなつながりも生まれ、同窓会ならではの温かな時間となりました。また式典の終盤には、前学長の宮本郁夫氏への退任お祝いが行われました。長年にわたり大学の発展に尽力された功績に感謝を込め、参加者から大きな拍手が送られました。統合15周年を迎えた同窓会は、これまで築いてきた絆を大切にしながら、これからも卒業生と母校をつなぐ架け橋として、さらなる発展を目指してまいります。



大阪国際大学・
大阪国際大学
短期大学部同窓会
山崎 真吾会長

- 2026年6月27日(土)、ホテルアゴーラ大阪守口において定例総会・懇親会を開催。活躍する卒業生として「小竹森晃講師(大阪国際大学)」にまちづくりの活動についてご講演いただきました。新たに滋賀支部も発足。今後の活動にご期待ください。
- 2026年9月13日、第1回同窓会バスツアーを開催します。また、同日17時より滋賀支部発会式を予定しております。
- 次回ホームカミングデイは、2026年11月1日(日)11:00～を予定しています。皆さまのご参加をお待ちしています。

撫子会

時を超えて紡がれる絆 ～10年ぶりの同窓会バスツアー、滋賀・近江八幡で世代を超えた交流が実現～

2025年12月7日(日)、暖かな小春日和のもとで開催された同窓会バスツアー。コロナ禍による中止を乗り越え、実に10年ぶりの開催となった今回は、11期生から75期生までの幅広い世代、さらには旧教職員総勢約100名の参加者が集い、バス3台を連ねて出発する一大イベントとなりました。20歳から84歳まで、母校への熱い思いを胸に滋賀県近江八幡方面へと向かいました。

旅のハイライト:五感で楽しむ滋賀の魅力

滋賀県の琵琶湖・近江八幡エリアを舞台に世代を超えた交流を楽しみました。最初の目的地「かねふくめんたいパークびわ湖」では活気あふれる工場を訪れ、大人になった今だからこその視点で製造工程を見学。出来立ての生明太子の試食に舌鼓を打ちながら、賑やかにお土産選びを満喫しました。続く昼食会場の「近江八幡休暇村」では豪華

な「近江牛御膳」を堪能し、各テーブルから「柔らかくて美味しい」と満面の笑みがこぼれ、絶品グルメを囲んで世代を超えた歓談に花が咲きました。午後からの「水荃焼陶芸の里」では手廻しロクロの陶芸体験に挑戦し、最初は四苦八苦しながらも、まるで童心に返って粘土細工を楽しむようにはしゃぐ声が響き、全員がロクロに集中する有意義な時間となりました。それぞれ個性が光る、美しい淡い黄緑色の伝統陶芸作品が見事に誕生しました。旅の締めくくりには、話題のスポット「ラ・コリーナ近江八幡」を訪問。美しい自然に囲まれた田園風景のなか、カフェで出来立ての生どら焼きやコーヒーを味わいながら、今日一日の思い出話に大輪の華を咲かせました。短い時間でありながら、異なる時代を過ごした同窓生たちが一つの空間で交流し、母校の精神を共有する大変有意義なひとときとなりました。



撫子会
堤 千香会長

撫子会総会

2026年6月7日(日)撫子会総会が開催され、2025年度事業・会計報告、2026年度事業計画・予算案、規約改正が承認されました。堤会長からは滝井高校跡地の再開発や記念碑建立、10年ぶりに開催されたバスツアーの成功が報告され、奥田理事長からは2029年の学園100周年に向けた展望が語られました。また、高江洲校長の近況報告に続き、吹奏楽部OGによる華やかな演奏と校歌斉唱が行われ、懐かしい仲間との交流に笑顔あふれるひとときとなりました。